

第 60 回 愛知県河川整備計画流域委員会 議事抄録

<天白川流域(渥美)②>

日時：平成 29 年 8 月 17 日（木） 11 時 10 分～11 時 55 分

場所：愛知県庁 6 階正庁

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 委員長挨拶
4. 議題

天白川流域（渥美）（第 2 回）

- 流域及び河川の概要
- 計画高水流量の検討
- 河川整備計画の方向性

5. 質疑

○委員

P.18 の主な浸水実績について、平成 16 年 10 月洪水と平成 13 年 9 月洪水は地図に示してあるが、最大の浸水面積となった昭和 55 年台風第 19 号の被害がどの程度なのか、地図に範囲が明記されていない。この浸水範囲が分かると、この河川の弱点が見えてくるので、それを示して欲しい。

○事務局

昭和 55 年の浸水範囲は、資料が残っていないためお示しできない。浸水範囲の資料が残っている平成 16 年 10 月洪水と平成 13 年 9 月洪水だけを図上で示している。

○委員

そうすると、昭和 55 年の浸水戸数が 0 戸とあるが、正しい数値か分からないということか。

○事務局

浸水面積や浸水戸数は、水害統計という全国的に水害状況を取りまとめた書籍に、浸水面積や浸水戸数などの数値が記載されているので、間違いのない数値である。

○委員

下流部について、地域住民は農地側よりも集落側の堤防が低いため心配している。平成 13 年、平成 16 年の浸水箇所は、よく水防団の出動が要請される所であり、天白川へ排水される用水路の土砂堆積が一因と考えられる。また、長倉橋周辺の堤防道路にはガードレールがないため非常に危険に感じている。また、長倉橋付近のラバー堰が現状では故障している。

○事務局

浸水の現状に関しては、これまで把握できていなかった部分もあったため、今後の参考にさせていただく。ガードレールについては、設置できるか回答できないが、関係機関に情報を伝

えさせていただきます。

○委員

長倉橋の下流で流下能力が不足しているが、それよりも上流では流下能力が十分にあり、上下流で流下能力のギャップがある。今回の長倉橋下流の右岸の整備をしたとしても、このギャップが引き続き残るのであれば、基準を超える大きな雨が降った時に、ウイークポイントになることが懸念されるため、危険分散できるように配慮した方が良い。

○事務局

長倉橋上流は、水門が設置される前の高潮堤防の整備が行われたことにより、長倉橋上流の堤防が高いと思われる。現状がウイークポイントになることについては、ご指摘のとおりである。

○委員

市街化の想定について、田原市全体の人口から市街化の想定をしているが、天白川が位置する田原市西部の市街化とは傾向が異なるのではないかと考えられる。

○事務局

市町村合併後は、田原市西部のみの人口推移がまとめられていないため、田原市全体の人口の推移を参考にしている。また、天白川流域の、土地の用途としては建物用の用地が近年少し増加傾向にあるため、こういったところも参考に設定している。

○委員

P.32にある「慣行水利権が許可されている」という表現は適切か。許可水利権と慣行水利権がそれぞれ1件ずつあるといった表現にすべきではないか。

○事務局

河川管理者は許可している立場のため、表現については変更させていただく。

6. 閉会

[了]